

平成30年度 県立水海道第一高等学校 自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う人材を育成する学校 ・地域に貢献する学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○「わかる授業」を展開すべく校内相互授業参観、中学校での授業参観等を実施し授業の工夫・改善を推進してきた。しかし、目標とする家庭学習時間が達成されていない生徒の割合が多い。そのため、3年間を見通した指導法・指導体制の改善を図り、生徒の学習意欲を高めることで計画的に家庭学習を進め、学習時間の増加に繋げたい。</p> <p>○個別面談・日々のコミュニケーションを通して生徒と教員の信頼関係は構築されているが、発達に課題がある生徒やメンタル面で不安を抱えている生徒の増加に伴い、スクールカウンセラーはもちろん専門家との情報交換が必要になっている。</p> <p>○部活動加入率が高く活発に活動しており、多くの部活動で良い成績を残している。反面、委員会活動においてはより自主的な活動を目標に支援していく必要がある。</p> <p>○地域貢献としてのボランティア活動に部活動単位・個人単位で参加している生徒が増えつつある。より積極的な活動が期待される。</p> <p>○積極的な広報活動により、志願者が増加している。保護者からの信頼も厚く、学校行事にも協力していただいている。広報活動をより充実させ、さらなる信頼へとつなげたい。</p>	授業の充実と学習習慣の確立	① 言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう授業の工夫・改善をし、「わかる授業」を展開するための公開授業の充実を図る。	B
		② 単位制のメリットを活かし、生徒各自の興味・関心・進路希望等に応じた科目を学習させる。特に、数学科・英語科および学校設定科目においては少人数授業を展開し、きめ細かな指導を充実させる。	B
		③ 自学自習の習慣化を図り、自主学習時間を増加させる。自主学習時間の目安を、1・2年次3時間以上、3年次5時間以上とする。	B
		④ 生徒の進路希望実現のため、平常日・長期休業中における組織的・計画的な課外および全員参加による土曜課外を実施する。	A
		⑤ キャリア教育としての大学見学会や進路希望別ガイダンス等を実施する。	A
	基本的な生活習慣の確立	⑥ 登校指導等を通して基本的な生活習慣の確立を図り、皆勤生徒数の増加を図るとともに、海高生として品位ある行動を確立させる。	B
		⑦ ・担任と生徒による個別面談を通して一人一人の悩みや不安に寄り添い、生徒理解に努める。(年間3回以上) ・教育相談体制を充実させ専門家の積極的・効果的な活用と関係機関との連携に努める。	B
	特別活動の充実	⑧ ・部活動やホームルーム活動、学校行事を通して、明るく豊かな健康作りや体力作りを実践し、生涯にわたりスポーツに親しむ態度を育成する。 ・HR活動・生徒会活動・各種委員会活動の活性化および自主的な活動を支援し、実践力を高める。	B
	保護者・地域との連携の推進	⑨ ・学校説明会、ホームページの定期的な更新および広報紙等を通して情報を積極的に発信する。 ・地域との連携を推進し、生徒の積極的なボランティア活動を推進する。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	国語を適切に理解し、表現する能力を育成する授業を実践する。	観点別学習状況評価を充実させ、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ①②	B	B <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲と確かな学力の向上 能動的学習を導く授業づくり 知識を活用する思考力の育成 授業の効率化 模試の効果的な活用方法 記述対応のための時間の確保 大学入試共通テストを意識した定期考査の作問
			授業形態を工夫し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う。 ①②	B	
			既習教材の要約を通じて、文章構成を意識して評論文を読解する力を養う。 ①～④	A	
			問題演習を行い、文法や単語の知識を解釈に活用する力を養う。 ①～④	A	
	地歴公民	主体的・対話的で深い学びを実践し、現在の活動内容の深化を図る。	視聴覚教材を積極的に活用し、授業の効率化と授業内容の多様化を図り、生徒の学習意欲を高める。 ①②③	A	B <ul style="list-style-type: none"> センター試験や大学入試共通テストを意識した授業の実践 基礎学力の定着
			授業及び教科外活動や小テスト等で基礎学力を定着させ、過去の入試問題を多用し、応用力を養成する。 ①②③⑤	B	
	数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別少人数指導により、学習意欲を喚起し、基礎力の養成を徹底する。 ①②③	B	B <ul style="list-style-type: none"> 習熟度少人数指導のあり方を考え、習熟度少人数指導以外の指導法を検討する。 大学入試共通テストを意識した授業の実践や考査の作問をする。 基礎学力の定着と応用力の養成に努める。
			数学教科内で教科・指導法等について研究協議する。年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テストを実施し、基礎力の定着を図る。大学入試共通テストを意識した授業展開を教科内で検討する。 ①②③	A	
		上位層の育成を図る。	習熟度別少人数指導と平日課外、土曜課外、個別指導等を活用し、応用力の養成に努める。 ①③④⑤	B	
	理科	基礎力の定着を図り、起伏がありわかりやすい授業を展開する。	学習内容が関連して理解できるよう、わかりやすい授業を構成して実施する。さらに、小テストやレポート等を課し、普段の授業理解を確認する。 ①③	A	B <ul style="list-style-type: none"> 大学入試共通テストを意識した定期考査や実力考査の作問 模試の効果的な活用方法 起伏ある授業の構築と実施
			演示や考察を含めた実験、デジタル教材やアクティブラーニングなどを導入し、起伏ある授業を展開する。 ①	B	
	英語	学力向上につながる授業・課題・課外を工夫し、基礎力の定着・応用力の育成を図る。	ICTを活用し、アクティブラーニングを取り入れ、主体的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 ①②③	B	B <ul style="list-style-type: none"> 4技能強化を図る授業展開を工夫し、評価法を共有する。 検定試験対策を含む、生徒の実態に合わせた課外の充実を目指す。 模試や共通テストにも対応できるように考査問題を工夫する。
少人数授業や課外授業を活用し、アウトプット活動や習熟度別指導などを取り入れ学力向上を図る。 ②③④					
模試をはじめ、GTECや英検など外部検定試験に向けて指導体制を整え、成果が得られるようにする。 ④			A		
保健体育	基礎的運動能力、体力の向上を目指す。	持久走の単元を生かして、有酸素運動能力の向上を目指す。 ①②	A	A <ul style="list-style-type: none"> 本校生徒の基礎体力は概ね高いが、体幹の筋力と50m走は全国平均を下回っており、この2点の向上が課題である。 また、生徒主体の活動を促す際に、その手立てと評価の検討を重ねる必要がある。 	
		体ほぐし及び身体づくりの運動を積極的に取り入れ、上肢と体幹の筋力の向上を目指す。 ①②			
	主体的に体育・スポーツに関わる習慣を身につける。	運動と健康のつながりを理解させるとともに、選択授業の中で生徒主体の活動を促し、運動習慣の定着を図る。また、国体に向けて1年次の単元でハンドボールを実施し、地域の特性に応じた展開を図る。 ①②	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	芸術	芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	創造的な能力を高める表現や鑑賞の学習課題を工夫し、生徒の個性を重視した少人数指導により、個々の生徒の感性を伸ばす。 ①②	B	B	・創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるよう（特に鑑賞分野）、指導を強化する。
	家庭	これからの時代を生きる生徒が希望を持ち、たくましく、よりよく生きる力を身につけることを目指す。	生活に必要な知識、技術を身につけて生活面で自立し、異なる世代の人たちと共生する意識を養う。 ①	B	B	・学校のグランドデザインに沿った内容・評価を意識して取り組む。
			生活する上での様々な課題を主体的に理解させ、持続可能な社会をつくる一員としての意識を高める。 ①			
情報	情報活用能力の向上を図る。コミュニケーション能力の向上を図る。	実習を多く取り入れ、情報リテラシー能力やコミュニケーション能力等の情報活用能力を向上させる。プログラミング等で自らの発想を反映することのできるICT活用能力の向上を推進する。 ①②	B	B	・より専門性の高い実習授業の展開が求められる。プログラムの思考の育成を目指したプログラム教育の授業研究を行う。	
教務	授業の充実による学力向上	「わかる授業」を展開するために授業の工夫や指導体制の改善を行い、「校内相互授業参観」週間を充実させ、教科指導力の向上を図る。 ①②	B	B	・現在の教育課程だけでなく、新学習指導要領実施に向けての研究も行き、積極的に授業力向上を図る。 ・授業公開の場を増やし、授業参観の機会を増やす。 ・業務の効率化をめざし、従来の体制や行事などを積極的に見直す。 ・情報機器の研究等を行い、学校全体での広報活動をさらに推進する。	
	適切な教育課程の編成	次期学習指導要領を見据えた教育課程計画、単位制のメリットを最大限生かせる指導法や評価方法等について、さらに研究を進める。 ②	B			
	生徒個別面談の充実	業務の効率化を推進し、面談時間を確保できるように支援する。 ⑦	A			
	入試広報活動の充実	学校内外の「学校説明会」の場を利用し、中学生・保護者の本校への興味・関心を高める。管理職や部長職以外の教員の中学校・塾訪問を今まで以上に推進し、本校の教育目標や活動について積極的な広報に努める。 ⑨	A			
	地域との連携を目指した広報活動	常に最新の情報を掲載するなど、ホームページの充実と積極的な情報発信に努める。 ⑨	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	服装・頭髪指導の徹底と、遅刻等の時間を守る自立した生徒を育成する。 ⑥	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪、服装指導の徹底。遅刻者の減少へ向けた取り組み。 ・常識あるマナーの向上へ向けた取り組み。 ・携帯電話の校内での使用方法の取り決めを考える。
	マナーの向上(交通・挨拶等)	PTA・警察と連携して、通学路の立哨や交通安全教室を通して交通マナーの向上に努める。 ⑥	A		
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通して、マナーの向上とコミュニケーションの充実を図る。 ⑥	B		
		スマートフォンの利用のルールを設定し、SNSのトラブルに巻き込まれないように注意を促す。 ⑥	B		
進路指導	キャリア教育の推進と学力向上	年次と連携し、キャリアガイダンス、大学出前授業、大学見学会、進路希望別ガイダンスなどの進路関係行事を実施する。また事前・事後指導の充実を図り、進路意識を高める。 ⑤	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の更なる推進 ・生徒の実態に即した各種進路行事の見直し、事前・事後指導の充実 ・文理別及び成績層別指導など、生徒の特性にマッチした指導 ・主体的に家庭学習に取り組む態度の育成 ○志望大学の合格率の向上 ・第一志望への合格率向上。特に、国公立大学、GMARCH以上の合格率の向上 ・進路選択のミスマッチをなくし、最後まで粘り抜く生徒の育成 ・英語外部検定試験や新テストなどの高大接続改革関係への対応
		自主学習時間を記録することで自身の学習量を把握させるとともに、担任・教科担当者による意識づけを継続して行うことで、学習時間の確保・増加を促す。 ④	B		
		課外授業(平常・土曜・長期休業中)の充実、および模擬試験・検定試験の有効活用(データの分析から指導の改善)を図る。 ③	A		
		校内外の様々な企画(大学公開講座、サイエンスキャンプ、宿泊研修など)への積極的な参加を促す。また自身の活動履歴(ポートフォリオ)を継続的に構築させる。 ⑤	B		
	進路情報の活用	多様な入試制度、今後の入試改革などの情報を収集・整理し、生徒・保護者・教員間で共有を図る。HR、面談、集会、講演会、分析会、進路だよりなどで情報を提供していく。 ⑤	B		
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	学校行事では、生徒会の自主性、自発性の活動を尊重し、生徒が自ら考え、計画立案ができるようにする。また、学校生活の充実と向上を図る活動も行う。 ⑧	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・亀陵祭での用意周到な計画 ・全校クラスマッチの更なる継続 ・壮行会の基準の見直し(大会名・アセンブリーの活用など) ・国体ボランティア活動の活性化 ・離任式での一般生徒の主体的参加型 ・歩く会での距離や実施方法の見直し ・部活動加入率の増加
		各種委員会では、校内活動を中心に、学校生活をよりよくするための活動を行う。 ⑧	A		
	ボランティア活動の活性化	ボランティア活動を通して、他校や、地域の人々との交流を図り、地域の社会づくりに参画しながら、地域貢献を目指す。 ⑨	B		
		平成31年の国体に向けた活動(下準備)を積極的に行い、本大会での運営サポートができる体制を整える。 ⑨	B		
保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。 ⑧	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部門の円滑な運営のために人的・物理的な環境整備に努める。 ・清掃の徹底やゴミの分別及び減量化について教職員および生徒に対して更なる理解と協力を求める必要がある。
		保健室来室者の現状を把握し、保護者・関係職員と連携し、健康回復を目指す。 ⑦⑧	A		
		防火防災訓練などの活動を通して、防災意識の向上を図る。 ⑧	A		
	教育環境の整備	清掃の徹底とごみの分別などの環境美化活動を推進する。 ⑥⑧	B		
		空調機器の健康的かつ効率的な運用を図る。 ⑧	B		
	生徒厚生の充実	各種奨学金の周知及び申請事務等を迅速に行う。 ⑤	A		
パン販売・自動販売機等の運営を円滑に行う。 ⑧		A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	該当項目を記入	評価		次年度(学期)への主な課題
渉外	PTAの活性化を図る	PTA総会・支部総会等の出席率をアップさせ、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したPTA活動の実施に努める。	⑨	B	B	・HP等を利用し、PTA行事・活動内容等を積極的に配信する。
	各行事の充実	各行事等における保護者への積極的な呼びかけにより(HPの充実・活用)、保護者の意識を高める。	⑨	B		
図書	図書環境と出版物内容の充実	常時開放・常時閲覧、生徒の調べ学習の援助、良書・新刊図書の紹介。新規購入図書の充実。センターホール・各年次のフロアスペースを利用した読書環境の充実を図る。図書室の利用数の増加を目指す。定期戦「亀丘時報」・「号外」、出版委員会「済美」の発行	⑤⑧⑨	B	B	センターホール・各年次フロアの活用。委員会活動の充実。新規購入図書の充実。パソコンによる蔵書管理。
教育相談	メンタルヘルスケアの充実	スクールカウンセリングを定期的に実施し(年20回以上)、生徒および保護者の精神的支援に努める。	⑦⑨	A	B	・スクールカウンセラーの来校回数確保の確保(増) ・教育相談室の整備(教室に入れない生徒への対応含む) ・中学校、大学、相談機関等、各関連機関との情報共有及び連携を強化する。
		カウンセリング前後に関係者との連絡協議を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。	⑦⑨	A		
	特別支援体制の充実	学校生活上、特別な配慮を必要とする生徒に適切な支援を行う。	⑦⑨	B		
		学校HPや教育相談に関する通信を定期的に発信し、特別支援教育への理解と周知を図る。	⑦⑨	B		
第1年次	基本的な生活習慣の確立	学校生活の規律を徹底し、規則正しい生活が送れるようにする。	⑥⑦	B	B	生徒の遅刻欠席が少なく、おおむね規則正しい生活をしている。しかし、スマートフォン等の利用において最低限のルールとマナーを守れない生徒への対応が必要である。
		個人面談等を通して生徒の生活状況を把握し、個に応じた生活指導を行う。	⑥⑦	A		
	基礎学力の向上と学習意欲の向上	日々の授業を大切に姿勢の徹底を図るとともに、classiを利用して生徒の学習状況を年次全体で把握し、学力の向上を図る。	①～④	A	B	本校で指導している学習スタイルが確立できた生徒は、学力が向上している。ただ学習習慣が確立できていない生徒が多く、家庭学習時間の絶対量は年間を通して常に少なかった。また、塾・予備校に無目的に通ってしまい、学校との両立に悩んでいる生徒もいる。今後、生徒に学習目的を明確に理解させ、主体的な学習ができるようになるための継続的な指導が必要である。
		家庭学習時間の少ない生徒には主任面談等を行い、学習意欲の喚起を図る。	①～④	B		
		学習意欲や進路意識の高い生徒に向けた集会や学習会を実施し、学力上位層の育成を図る。	①～④	A		
		適切な学習課題を設定し、予習復習の大切さを認識させ、家庭学習時間の確保を図る。	①～④	B		
	自己理解の深化と将来像の明確化	進路指導の中で自己理解の深化を図り、将来像を明確にする。	⑤	B	B	様々な進路行事を通し、自分と向き合いながら自分の生き方、あり方について考える時間を多く取り入れ、職業を見据えた大学進学へのモチベーションを高める必要がある。
		総合的な学習の時間(道徳)やLHRを計画的に進め、将来の進路実現に向けて考える機会を数多く作る。	⑤⑧	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	該当項目を記入	評価	次年度(学期)への主な課題	
第2年次	個に応じた進路指導の徹底	個別面談により進路希望を把握するとともに個に応じた学習・進路指導を展開する。	⑥⑦	A	B	生徒それぞれの進路目標を高く維持し、それに応じた指導、授業展開を心がけてきたが、未だにはっきりとした目標ができていない生徒の指導が必要である。
		学力に応じた課外授業や補習授業を展開することで、高い進路目標を設定させるようにする。	⑥⑦	B		
	学習スタイルの深化	それぞれの学習状況を把握し、予習・授業・復習のサイクルを徹底させる。	①～④	B	B	希望する大学に合格する為に必要な学習方法の確立、学習量の確保の意識を徹底させることが必要である。それと同時に、学習面では2極化が進んでいるので、成績下位層の学習意欲の高揚を目指す指導を工夫しなければならない。3年次に向けて良いスタートが切れるように指導をしていく。
		成績下位層の生徒や学習時間の少ない生徒に対して、学習意欲の高揚を計る。	①～④	B		
		それぞれの学力層に応じた学習指導を行い、学力向上を促す。	⑤	A		
		課題を課すことで、主体的に学習する時間を確保する。	①～④	A		
	自律ある学校生活の展開	2年次として後輩の規範となるべく自覚を促し、学校行事やHR・生徒会・各種委員会活動に積極的に参加させる。	⑧	B	B	最終年次として、個々の進路実現を目標にするとともに、他年次の模範となる学校生活を送れるように指導していく。
		保護者との緊密な連帯を図り、それぞれの進路実現に向けて生活習慣を再構築させる。	⑨	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	該当項目を記入	評価	次年度(学期)への主な課題	
第3年次	進路希望の実現を目指した進路指導の徹底	個人面談を計画的に進め、生徒一人ひとりが抱えている課題を把握しながら、最後まで諦めさせない進路指導を展開する。	④⑦	A	A	様々な行事・企画を通して、生徒たちの学習意欲・進路意識を喚起してきたが、本格的な受験勉強へとスムーズにスタートできた生徒と、そうでない生徒で意識の開きが出てしまった。生徒たちの現状と実態に即した指導という点では、検討の余地が残った。 推薦・A0入試への対応は、今後入試のバリエーションが変わってくるのが予想されるため、組織的に考えていく必要があると思われる。冬季保護者面談の時期は3年生にとっては1週間早い今年の日程が、その後再度生徒と受験スケジュール等の調整も出来て、効果的であった。
		毎日の学習状況調査から生徒の実態を把握し、計画的・主体的な学習スタイルの確立を促す。	①③	A		
		学力層を考慮した課外や個別指導、進路行事を効果的に行い学力向上を支援する。	②④	A		
		教員間での情報共有に努め、目線あわせを行う。志望校分析会を前期、後期にそれぞれ1回以上実施し、年次全体で生徒を見ていく姿勢で対応する。	④	A		
		保護者への進路情報の提供を密に行い、進路希望実現に向け連携を深める。	④⑧	A		
	自律ある学校生活の育成	最終年次としての誇りと責任感を自覚し、学校行事への積極的な参加やHR活動の充実を図る。	⑥⑦	A	B	特編授業中の欠席者は、例年と比較すると多くはない印象であるが、やはりセンター試験後は増えてしまった。この時期の指導の在り方については、今後も検討していくと同時に教務と相談して、特編授業時における欠時について、システム化して生徒への指導に対応する必要がある。
		生活習慣の見直しを常に考えさせ、受験期であるからこそその規律ある生活リズムの大切さを意識させる。	⑥⑦	B		
		面談や情報交換から、生徒の問題行動や悩みなどの早期発見を心がけ、関係各部と連携し解決を図る。	⑦	B		

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60～79%) C:やや不十分(達成度40～59%) D:全く不十分(達成度39%以下)